



「また全国の舞台で戦いたいです」と、戸井田さん

輝いています

フットサル全国大会出場

ひと

と い だ も え り
戸井田 萌里 さん

経験を糧に再び全国のピッチへ

5 人対5人のミニサッカーで、多くの人に親まれていたフットサル。接触プレーの制限やボールに触れる機会の多さ、速い試合展開が特徴です。武南高校女子フットサル部の戸井田萌里さん（17歳・塚越5丁目）は、11月に行われた18歳以下の女子が集う全国大会「グリーンアリーナ神戸カップU-18」への同部の初出場に、攻守にわたって貢献した一人です。

小さいときからボール遊びが好きで、5歳の頃から8年間サッカークラブに所属し、男の子に交じってピッチを駆け回っていた戸井田さん。高校は県内で数校のみと珍しい、女子フットサル部がある武南

高校へ。すぐにレギュラーの座をつかむと、点取り屋として前線で力を発揮しました。昨春からは視野の広さや当たり負けしないボディバランスの強さを買われ、ディフェンスにポジジョンを変え、守りの要を担うだけでなく、カウンターの起点としてチームのキーマンとなっています。

そんな戸井田さんが関東代表として仲間と挑んだ全国大会では、地方ブロックを勝ち抜いた6チームが2リーグ制で競い合いました。これまで目にしたことのない観客の多さや格上の相手にのまれ、チームは序盤浮き足立ちしましたが、徐々にボールを支配し本来のペースに。しかし、健闘及ばず2試合とも僅差で敗れ、予選リーグ敗退となりました。

それでも、相手との距離の取り方やプレスのかけ方など、自分自身の課題を見つけるとともに、大舞台での経験が大きな自信につながりました。

高校生活も残り1年ほどとなった現在、今後の目標は「夏の全国大会での勝利です。チーム一丸となって借りを返したいですね」と、闘志を燃やします。ひたむきにボールを追いかけてきた戸井田さんの戦いは今幕が開けたばかりです。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.20 —

本作品は展覧会で御覧いただけます



暁斎筆「新板七福神八犬伝之図」大判錦絵三枚続

この大判三枚で一続きとなっている版画は、江戸時代後期に出版された曲亭馬琴著の長編読本『南総里見八犬伝』を題材にして七福神を描いた正月用の錦絵で、明治18年（1885）の成年用に出版され

ました。恵比須が登場人物の犬塚信乃、大黒天が犬飼現八に扮し、「芳流閣」を「福寿閣」と名称を変えた楼上で対面しています。毘沙門天はツケを打って両者の芝居を盛り上げ、ほかの福神たちはほろ酔い加減で見物に興じており、何ともめでたい作品です。



現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 1月5日(金)～2月25日(日)

「戌年の心新たに 神様・ほとけ様」展
同時開催「英国の子供たちの見た暁斎」展

開館＝午前10時～午後4時 ところ＝南町4-36-4
休館＝年末年始、木曜日、毎月26日～末日
入館料＝一般600円 中学生～大学生500円
小学生以下300円（20人以上の団体は要予約）
詳細＝同館 ☎441・9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

